

A17b HETE-2衛星による X線バーストの観測

高橋大樹、吉田篤正、中川友進 (青学大理工、理研)、坂本貴紀 (東工大理、理研、LANL)、松岡勝 (宇宙開発事業団)、河合誠之、浦田裕次 (東工大理、理研)、玉川徹、鳥居研一 (理研)、鈴木素子、佐藤理江 (東工大理)、白崎裕治 (国立天文台)、G.Ricker(MIT)、他 HETE-2 チーム

HETE-2 衛星は、ガンマ線バーストの観測を主目的とするが、銀河系内中性子星表面の核暴走反応である X 線バーストに対しても高い検出感度と位置決定能力をもつ。

HETE-2 衛星の観測視野は原則として反太陽方向を向いているために、5月から9月までの期間は銀河中心近傍の連星 X 線源を継続的に観測することになる。HETE-2 衛星搭載 WXM 検出器の2001年5月24日～2001年9月4日の期間に135個の X 線バーストを検出して位置を決め、それぞれ、GS1826-238、X1728-34、AqlX-1、NGC6624、SAXJ1750-29、X1916-053、X1812-121、SL1753-269、NGC6652、X1724-307、X1702-429、M15、GCX-1 に同定することが出来た。

本講演では、これらのイベントの解析結果について報告する。また、2002年の観測結果についても報告するつもりである。